

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



G I F U

岐阜県 | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
Gifu Prefecture

岐阜県は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは？

Question 1

SDGsはいつできた？

SDGsは、2011年に南米のコロンビア共和国外務省のパウラ・カバジェーロ環境局長が地球環境問題においても、ゴール、ターゲット、指標を設け、取り組むべきと主張したことが始まりです。

その後、2012年の「リオ+20サミット」から国連加盟国間の交渉がスタートし、3年半にわたる話し合いの末、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択されました。



Question 2

持続可能な開発とは？

私たちだけでなく、子ども、孫、その先の世代のことまでを考えた開発のことです。

利益ばかりを追求して、環境や人権を犠牲にしては持続可能ではありません。

持続可能な開発には、環境・社会・経済の調和が不可欠です。

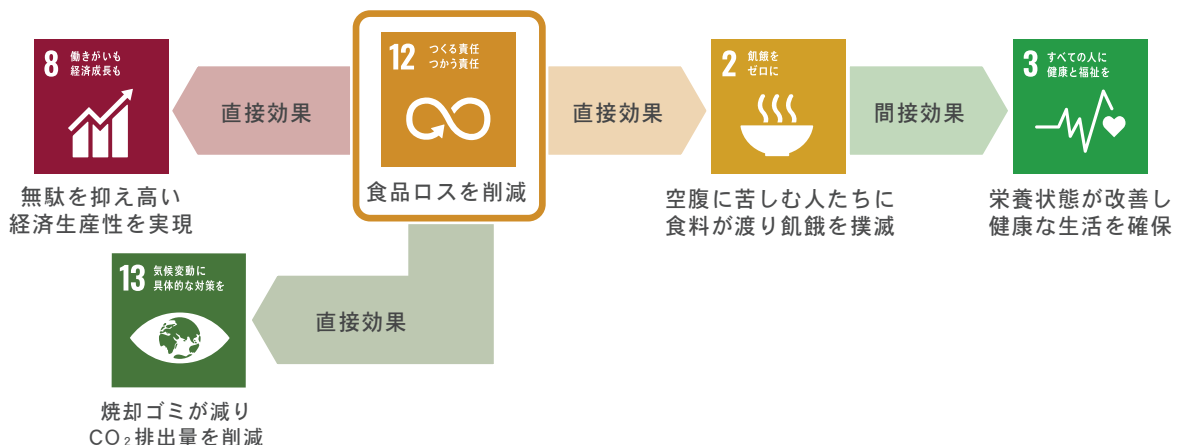


Question 3

すべてのゴールはつながっている？

SDGsの各ゴールは、相互に関連し合っています。例えば、「食品ロスを削減」と、下の図のように、「ゴール2 飢餓をゼロに」、「ゴール8 働きがいも経済成長も」、「ゴール13 気候変動に具体的な対策を」の達成にもつながります。

また、空腹に苦しむ人たちに食料が渡ることによって、栄養状況が改善し、「ゴール3 すべての人に健康と福祉を」への効果も期待できます。このように、ひとつのゴールの達成が、様々な課題の解決につながり、相乗効果を生み出していくのもSDGsの特徴です。



「Sustainable Development Goals」の略称で、日本語では「持続可能な開発目標」といいます。国連加盟193か国が達成を目指す2016年から2030年までの国際目標であり、17のゴール、169のターゲット、231の指標で構成されています。

Question 4

SDGsはなぜ必要？

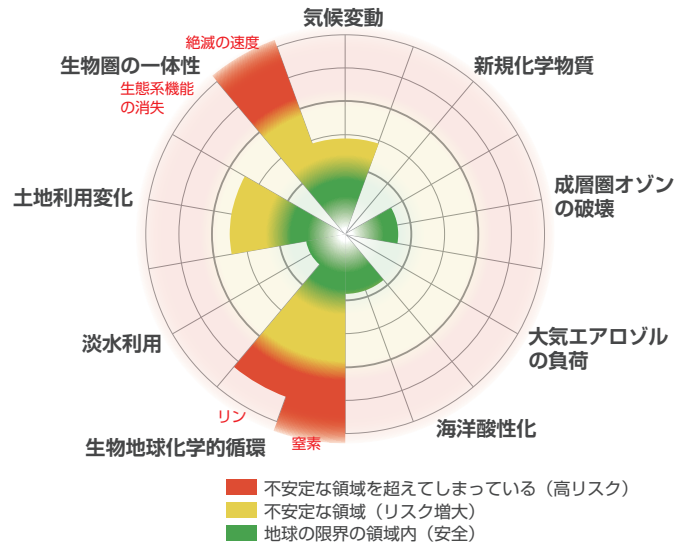
今の私たちの社会は「地球1.69個分」の資源を消費して成り立っています。

すでに地球はいくつかの点で限界に達しており、このままではいずれ立ち行かなくなると言われています。

これを「地球1個分」の社会に変え、地球を守り継いでいくことを目指すのがSDGsです。

プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）

9つの要素から、地球で人が安全に暮らすことができる限界点を示した概念



出典：Will Steffen et al. 「Planetary boundaries : Guiding human development on a changing planet」、環境省



Question 5

環境保護が最優先？

健全な環境があつてこそ、良好な社会が成り立ち、その上に活発な経済が生まれます。環境は、社会、経済の土台であり、SDGsの重要な柱です。

この考え方を分かりやすく表したのが、スウェーデンの研究者が考案した「SDGsウェディングケーキモデル」です。

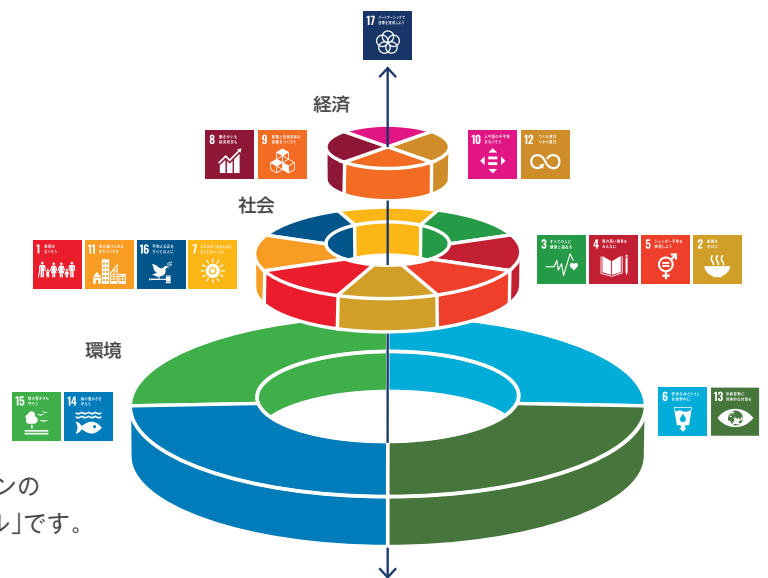
Question 6

SDGsを達成するためには？

SDGsをこの地球で暮らす一人ひとりが守るべき、最低限のマナーと意識しましょう。そのうえで、SDGsの達成に向けた一人ひとりの努力をつないで、大きな流れにしていくことが必要です。

そのために、まずは、SDGsを「自分ごと化」して、身近なところから始めてみましょう。

SDGsウェディングケーキモデル



出典：Stockholm Resilience Center 「How food connects all the SDGs」

岐阜県のSDGs 推進のあゆみ

世界の動き

2015年9月 国連サミット

国連加盟国193か国がSDGsを全会一致で採択

2019年9月 国連SDGsサミット2019

これまでの4年間の取り組みに対して進捗の遅さを厳しく評価



2015年12月

「清流長良川の鮎」が「世界農業遺産」に認定

長良川は流域に約86万人の人口を抱え、都市部を流れる川でありながら、流域の人々の暮らしの中で清流が保たれ、その清流で育つ「鮎」は、流域の食や伝統文化、歴史、経済と深く結びついています。

鮎を通じて見えてくる、そうした人の生活、水環境、漁業資源が相互に深く関わり、循環する仕組みが世界に誇るべき「長良川システム」です。

SDGsを体現する、この「長良川システム」が世界に認められ、「清流長良川の鮎」として国連食糧農業機関（FAO）により世界農業遺産に認定されました。



2020年4月

「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークを設置

持続可能な地域づくりを進めるにあたっては、SDGsの達成に向けた取り組みが、幅広い分野や地域で展開されることが重要です。このため、県内の企業や団体、NPO、個人など多様な主体が連携し、パートナーシップを組んでSDGsの達成を目指す「オール岐阜」による組織として、「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークを設置しました。

2021年10月には、ネットワーク会員の中から、SDGsの達成に向けた取り組みが顕著である会員をリーディング会員として認定し、県とともに普及啓発活動を通して、県内のSDGsの取り組みの輪を広げています。こうした取り組みの結果、会員数は順調に増加し、2022年7月には1,000会員に到達しました。



2020年7月

岐阜県が「SDGs未来都市」に選定

「SDGs未来都市」とは、国が環境・社会・経済の3つの側面から新しい価値を生み出し、持続可能な開発を実現するポテンシャルの高い都市や地域を選定するものです。

岐阜県は、この「SDGs未来都市」に選定され、これを契機に、SDGs推進の将来ビジョンであり、アクションプランとなる「SDGs未来都市計画(2020~2022年)」を策定し、SDGsの達成に向けた取り組みを強化しました。

その後、2021年には、岐阜市、高山市、美濃加茂市、2022年には、恵那市が「SDGs未来都市」に選定されています。

岐阜県では、国連でSDGsが採択されて間もない、2015年12月に「清流長良川の鮎」が「世界農業遺産」に認定されたところから、SDGsの達成に向けた取り組みを本格的にスタートしました。そこから今日に至るまでの歩みを紹介します。

2020年1月 「行動の10年」のスタート

今後の10年で遅れを取り戻すため、国連において「行動の10年」を国際社会の責任と位置付け、取り組みを加速化

2030年



2023年3月

「第2期SDGs未来都市計画（2023～2025年）」を策定

SDGsが採択されて7年、「SDGs未来都市計画」を策定して3年が経過し、この間に、新型コロナウイルス感染症の拡大などにより、社会経済情勢や私たちのライフスタイルは大きく変化しました。

また、地球規模で進行する気候変動や環境問題が深刻化しており、将来にわたって住み続けられる社会を目指す、SDGsの重要性はより一層高まっています。

そこで、1期計画が目指す「自然と人が創り出す世界に誇る『清流の国ぎふ』」という将来像は、変わらぬものとしてそのまま据えつつも、豊かな自然といった本県の強みを活かしながら、新たな変化や課題に対応し、持続可能な「清流の国ぎふ」を確実に実現していくことをねらいとして、「第2期SDGs未来都市計画」を策定しました。



「清流の国ぎふ」ブランドと変化に強い地域経済の確立

- 持続可能な「清流の国ぎふ」ブランドの確立
- 世界に選ばれる持続可能な観光地域づくり
- デジタル技術を活用したビジネス変革の実現
- 県内産業の活力の強化、新事業展開の促進
- 地域経済を支える広域ネットワークの形成

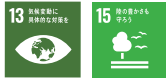
誰もが活躍し生きがいを感じられる地域社会の構築

- 誰もがともに活躍できる共創社会の実現
- 新次元の地方分散に向けた環境整備
- 「長良川システム」をはじめとする豊かな川の営みの保全・活用・承継
- 豊富な森林資源を活用したぎふ木育の推進
- ふるさと岐阜への誇りと愛着の醸成
- 地域医療・福祉基盤、子育て環境の整備
- デジタル・デバインド（情報格差）を感じない社会の整備

岐阜県のSDGsアクション

環境 environment

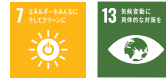
100年先を見据えた森林づくり



気候や地形などの諸条件を踏まえ、民有林を「木材生産林」、「環境保全林」、「観光景観林」、「生活保全林」の用途に分け、100年先を見据えた計画的な森林配置を進めています。また、森林のCO₂吸収能力を最大限に生かすため、適期を迎えたら伐採して木材として利用し、その後に新たな苗木を植える「森林の若返り」を進めています。



「脱炭素社会ぎふ」の実現



温室効果ガス排出量の削減に向けて、省エネ基準に適合する住宅取得への支援や専門家による事業所へのアドバイスなど、「省エネルギー」対策を進めています。また、住宅や事業所への太陽光発電設備の導入支援による「創エネルギー」や、「吸収源対策」として、本県の強みである森林を活かした独自の森林吸収クレジット制度の構築などにも取り組みます。



循環型社会の形成促進



プラスチック資源の循環に取り組む事業所を「岐阜県プラスチック・スマート事業所」として登録するほか、海洋ごみ対策として散乱ごみの実態や清掃活動の成果を「見える化」したウェブページを運用しています。また、食品ロスの削減に向けては、「てまえどり」や「食べきり」を呼びかけるキャンペーンを展開するほか、規格外となった農産物の6次産業化商品への活用を支援しています。



経済 economic

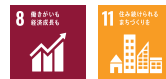
「清流の国ぎふブランド」の確立



伝統的工芸品から工業製品、農林畜水産物に至る「清流の国ぎふブランド」の確立に向け、ECサイトによる販売力強化や海外バイヤーとの商談会の実施、国内外の見本市への出展など、知名度向上や販路拡大に取り組んでいます。また、地場産業の技術承継や研究開発、職人のデジタルスキルの向上なども支援しています。



サステナブル・ツーリズムの推進



地域の自然や文化を保全しつつ観光に活用する取り組みが評価され、2020年から3年連続で「白川村」、「長良川流域」、「下呂市・下呂温泉」が国際認証機関による「世界の持続可能な観光地100選」に選ばれました。こうした取り組みを県内各地に浸透させるため、持続可能な観光地域づくりを牽引する観光プログラムを「岐阜未来遺産」として認定するなど、サステナブル・ツーリズムを推進しています。



持続可能な農業の推進体制づくり



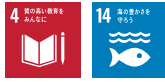
高い生産性と環境負荷軽減の実現に向け、無人ロボットトラクタや自動航行ドローンなどを活用したスマート農業、栽培環境や生育などのデータに基づくデータ活用型農業を進めます。また、有機農業の拡大に向けて、害虫対策や化学肥料の低減などの技術開発を進めるほか、これから有機農業を始める方をサポートするアドバイザーの登録制度を創設します。



岐阜県では、2030年のあるべき姿「自然と人が創り出す 世界に誇る『清流の国ぎふ』」の実現を目指し、環境、経済、社会の3つの側面と、これらを進めていく仕組みづくりに取り組んでいます。

社会 society

「清流長良川の鮎」の 保全・活用・承継



世界農業遺産「清流長良川の鮎」の持続的発展を図るため、「長良川システム」の保全・活用・承継につながる活動に取り組む団体などを確保するとともに、若い世代に向けて、鮎のつかみ取りや釣り体験などのふるさと教育を進めます。また、内水面漁業の振興を目指す海外研修生受入れや専門研究員の現地派遣など、国際貢献を進めます。



文化芸術活動の振興



これまで、地域に根付き、大切に受け継がれてきた、地芝居をはじめ、多彩な文化芸術の魅力発信に取り組んできました。2024年には、これまでの活動の集大成として、「『清流の国ぎふ』文化祭2024」と全国の高校生が集う総合文化祭である「『清流の国ぎふ』総文2024」を開催し、「オール岐阜」で清流文化を創造・発信していきます。



安心して子育てできる 環境づくり



保育所などの待機児童対策や病児保育・一時預かりなどの子育て支援サービスを拡充するほか、スマートフォンやSNSの普及に伴うトラブル、ヤングケアラーや子どもの居場所づくりなどの課題にも取り組んでいます。今後は、子どもの安全対策の強化や、伴走型相談支援などの妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援を推進していきます。



仕組み structure

「オール岐阜」のネットワーク づくりと自律的好循環の 形成



企業や団体、個人など多様な主体が参画する「『清流の国ぎふ』SDGs推進ネットワーク」を設置し、情報共有や普及啓発、交流促進などを通して、会員の活動を支援しています。今後、SDGsに取り組む事業者を登録する制度を創設し、行政や金融機関による融資やコンサルティングなどの支援メニューの充実を図り、自律的好循環（資金の還流と再投資）の形成を進めます。



SDGsの普及啓発の展開



これまで、県民や事業者、市町村の皆さんの行動に向けた学びや気づきの場として、フォーラムやセミナーを開催してきました。SDGsは着実に私たちの暮らしに浸透してきており、県民の皆さんのSDGsに対する認知度は9割、行動に移している方の割合は5割に達しています。今後もセミナーの多様化や体験型ワークショップ、事業者間の交流会など、コンテンツの充実を図ります。



新岐阜県庁舎の開庁



2023年1月4日に開庁した新県庁舎は、通常建築物の1.5倍の耐震性を有し、災害対応の中核拠点となるとともに、外壁や内装に県産のタイルやヒノキ、美濃和紙などを使用して県の魅力を発信しています。加えて、照明のLED化や断熱・遮熱性能の高い窓ガラスの採用などにより環境負荷の低減を図っています。これらの機能を最大限に活用し、質の高い行政サービスを提供します。



SDGs 未来都市のSDGs アクション

岐阜市 GIFU CITY

シビックプライドの醸成とWell-beingの向上で「持続可能なまち」づくり

岐阜市では、山水と都市が融合したヘルスツーリズムを進め、市民一人ひとりのシビックプライドを醸成し、Well-beingを高めることで、誰もが生きがいを持って健幸に暮らせる持続可能なまちを目指しています。

クアオルト 健康ウォーキング



金華山や長良川などの自然を活かした健康ウォーキングや、このウォーキングと温泉や歴史資源などを組み合わせたヘルスツーリズムを進めています。



かわまちづくり



官民連携による夜市の開催や多様な鶴飼観覧方法の創出など、長良川の歴史や文化、景観を活かし、「かわ」と「まち」が融合した良好な空間形成に向けた、「かわまちづくり」を進めています。



リノベーション まちづくり



柳ヶ瀬を中心とするエリアに、その場所にしかない、お店、サービス、人、体験など、まちの魅力となるコンテンツを集積し、エリアの魅力や価値を高めるまちづくりを進めています。



岐阜市企画部 未来創造研究室 TEL:058-214-2004
E-mail:mirai@city.gifu.gifu.jp



高山市 TAKAYAMA CITY

世界を魅了し続ける「国際観光都市 飛騨高山」を実現

高山市では、日本一広い市域に広がる豊かな自然、歴史、文化、伝統、匠の技、温かい人情など多彩な魅力を次世代に守りつなぎ、国内外から選ばれ続ける「国際観光都市 飛騨高山」の実現を目指しています。

SDGs推進 プラットフォーム



多様なステークホルダーが連携・協力し、地域課題の解決や新たな発想につなげる場として、「飛騨高山SDGsパートナーシップセンター」を設立し、市民が気軽にSDGsに触れていたための「私なりのSDGs宣言」などに取り組んでいます。



高山駅西側の 新たなまちづくり



国内外から多くの観光客を受け入れる飛騨の玄関口であるJR高山駅の西側について、「ふれあい×にぎわい×つながり～市民の夢や願いをかなえ、笑顔と心をはずませる駅西エリア～」をコンセプトに、新たなまちづくりを進めます。



持続可能な 観光まちづくり



観光を広義にとらえ、郷土教育や環境、地域振興などに活かすとともに、「観光を柱とした地域経済」から「地域経済のために観光を活かす」への転換を目指す新たな観光ビジョンを策定し、観光と生活の調和に取り組みます。



現在、県内では、岐阜県に加え、岐阜市、高山市、美濃加茂市、恵那市が「SDGs未来都市」に選定されています。それぞれの地域の特色を活かした、SDGsの達成に向けた取り組みを紹介します。

美濃加茂市 MINOKAMO CITY

「ローカルSDGsみのかも」を目指し 新たな価値を生み出す里山をリ・デザイン

美濃加茂市では、「心」「体」「社会」における「健康のまち」の実現に向け、これまでの里山ブランドをベースに、市内のステークホルダーと連携し、新たな価値を生み出すイノベーションの創出とリ・デザインを行います。

みのかも健康10か条



「心・体・社会の健康」に注目し、これまでも提案してきた取り組みを家庭や企業(会社、事業所)だけでなく、双方の視点から健康づくりについて考え推進していきます。



再生可能エネルギーと 地産地消ビジネス



脱炭素、カーボンニュートラルを推進し、エネルギー事業からソーシャルビジネスの立ち上げを目指します。気候を活かした太陽光発電設備の設置や省エネ技術の導入を支援しています。



里山xSTEAM MINOKAMO2030 プロジェクト



高校や大学等と連携し、里山を活用しながら「産業」、「環境」、「経済」、「教育」、「ESG」など多様な分野で、未来をデザインする若い力を育成しています。



美濃加茂市産業振興部 環境課ローカルSDGs推進室 TEL:0574-25-2111
E-mail:sdgs@minokamo.lg.jp



恵那市 ENA CITY

観光・交流から定住、さらに安住、共生へとつながる 恵那ライフを実現

恵那市では、自然とひとに受け継がれた豊かなくらしの遺伝子(ENA)が未来に向けて確実に継承され、域内循環型の経済・社会の土台に、多世代や多様な個が共生する持続可能な社会を形成することを目指しています。

電力の地産地消の推進



民間企業と連携し、「恵那電力株式会社」を設立。公共施設の未利用屋根などに設置した太陽光パネルにより発電した電力を公共施設などに供給する取り組みを進めています。



資源と資金の域内循環の推進



市が設置する資源回収コンテナをPTAや地域などが管理・運営をし、収集された資源を市内製紙会社で再生する資源の循環システムを構築。PTAや地域などには資源売却益と市の補助金が入り、地域運営の財源に充てています。



食農連携の推進



農業と他の産業との連携による恵那市ならではの商品開発の促進や学校給食の地場産物使用率の向上など、地域で消費するものを地域で生産する地産地消を推進し、持続する食産業の仕組みを構築します。



恵那市まちづくり企画部 企画課SDGs推進室 TEL:0573-26-2111
E-mail:sdgs@city.ena.lg.jp





NPO法人e-plus生涯学習研究所

岐阜市／教育・学習支援

私たちの住む地域を愛する 子どもたちを育む



環境カウンセラーが中心となり、「私たちの地球を今のまま将来に残したい」をキーワードに、地球温暖化防止や3R、省エネなど、日々の生活の中での関わりを意識した環境教育・環境学習を学校や地域で進めるNPO団体です。子どもたちが「楽しい」「面白い」と思えるよう、工作やゲーム、クイズなど、プログラムに工夫を凝らし、環境問題についてみんなで考えていききっかけづくりに取り組んでいます。



県立郡上北高等学校 ～食品ロス減らし隊リターンズ～

郡上市／学校教育

食品ロス削減から はじまるSDGs



食品ロスの多さに衝撃を受け、2020年に有志6人でチームを結成し、食品ロスの現状や取り組みを積極的に発信しています。活動3年目となった今年は新たに6人が加わり、食品ロス削減カレンダーを制作し、市内の全中学生に配布しました。モットーは「Think Globally Act Locally ～家庭が変われば地域が変わる、地域が変われば社会が変わる～」。食品ロス削減を入口に、持続可能な社会を目指して自ら行動することの大切さを伝えたいと活動しています。



坂下小水力発電株式会社

飛騨市／電気業

「食」と「エネルギー」の自給自足で 強い地域を目指す



2008年のリーマン・ショックを機に「食」への関心からトマト農家に転身。その後の東日本大震災で、首都圏での停電や水不足を見聞きする中、この地の豊富な雪解け水を何かに使えないかと考え、5年の準備期間を経て、小水力発電事業を開始しました。「食」と「エネルギー」は生活に欠かすことのできない重要な要素。この2つを自給自足することで、災害時にも生き残ることができる、強い地域を目指しています。



SUNSHOW GROUP 三承工業株式会社

岐阜市／建設業（建築工事）

女性活躍から働き方改革 そしてSDGsへ



第2回「ジャパンSDGsアワード」(外務省)において、中小企業として初受賞。女性中心の「チーム夢子」を作り、カンガルー出勤(子連れ出勤)やキッズスペース設置など子育て世帯のライフキャリアステージにあった労働環境を整備。また、事業を通して社会課題解決するビジネスモデルを展開し、「平時活用・有事機能発揮」する庭(地域防災)や、外国籍の方と地域の方がコミュニティの醸成を図っていく多文化共生支援を行うなどダイバーシティの考えで取り組みを行っています。



県内の企業や団体も、それぞれの立場でSDGsの達成に向けた取り組みを通じて、社会課題の解決や地域の発展に貢献しています。そんながんばっている企業・団体をいくつか紹介します。

株式会社十六フィナンシャルグループ



岐阜市／銀行業

お客さまや地域とともに SDGsを推進



地域企業のSDGs経営の導入に向けて、ヒアリングをもとに分析・診断し、「SDGs行動宣言書」の作成から、課題解決に向けた提案、必要な資金調達に至るまでをワンストップで支援するとともに、地域企業のSDGsの取り組みを紹介するパネル展などを開催し、地域全体でのSDGsの普及啓発や機運醸成に努めています。また、自らCO₂排出量削減や森林保全活動、地域の清掃活動などに取り組んでいます。



NPO法人泉京・垂井



垂井町／地域づくり

SDGsを通して「タウン・プライド」 を持てる社会に



毎年、1万人ほどが集まるイベント「フェアトレード日垂井」の開催のほか、フェアトレード・地産地消商品の開発・販売、約20のNPO団体による揖斐川流域の一斉清掃や国際協力、地域づくりの人材育成、SDGs導入のためのコンサルティングなどに携わっています。SDGsは世界とつながるためのツールであり、SDGsを通して、「タウン・プライド(自分たちの地域に誇り)」を持てる社会を目指し、活動しています。



株式会社艶金



大垣市／製造業(染色整理加工)

「環境配慮型染色整理工場」 というビジネスモデルを確立



繊維を持続可能な産業に戻すために、水とエネルギーを大量に消費する繊維染色整理業において、バイオマスボイラーへの転換によりカーボンニュートラルを実現し、さらに使用電力を再生可能エネルギーへ転換中です。また、DXへの取り組みによる省エネルギー化を進めています。社内食堂の残飯を堆肥化し、野菜や果物をつくり、社員参加型の取り組みを実践するほか、食品残さを用いた、のこり染ブランド「KURAKIN(クラキン)」、使われていない在庫生地をアップサイクルするアパレル「reticot(リトリコ)」にも取り組んでいます。



東京海上日動火災保険株式会社 岐阜支店



岐阜市／保険業

SDGsで地域社会が抱える 課題解決に貢献



お客様や地域社会の“いざ”をお守りし、安心・安全をお届けするという使命を果たす中で、各種セミナーやイベントの開催、健康経営の導入やBCP策定のサポート、SDGs診断などを通じて、SDGsの推進に取り組んでいます。また毎年、県内企業の若手社員や大学生らが参加する岐阜県創生研鑽会を開催し、異業種間の連携・交流により、DX・GXによる地域の活性化や課題解決の方策をまとめ、県に提言しています。



企業・団体などのSDGsアクション

東和組立株式会社

美濃加茂市／製造業（自動車部品）

ダイバーシティからSDGs そして地域循環経済へ

障害の有無や性別、国籍に関係のない雇用を進め、障がい者の実雇用率は18%に達し、また、従業員に占める外国籍や女性の比率も、ともに30%を超え、「誰も置き去りにしない」職場づくりを実践しています。この背景には、IoTを取り入れ、誰もが従事できるよう工夫するなど、業務改善に取り組む風土にあり、こうした功績が認められ、2020年には、経済産業省の「新・ダイバーシティ経営企業100選」にも選ばれています。



株式会社長瀬土建

高山市／建設業（土木工事）

「経年美化」する自然と調和した 「森を育む道」づくり

土木会社でありながら、日本で初めて林業に参入し、飛騨高山の地で、ドイツで学んだ生態系にも配慮した環境再生型の「森を育む道」を忠実に再現しています。この道は、2020年7月の累計雨量1,400ミリを超える豪雨でもびくともしなかつたうえ、時の経過とともに、自然と調和し美しさを重ねています。また、建設業界では先進的な週休2日の実現や地元の子どもたちへの現地見学などの地域貢献にも積極的に取り組んでいます。



一般社団法人ヒトノネ

岐阜市／教育・学習支援

地域と一緒に子どもたちの 「学びの場」を創出

子どもが小学生にあがってから多くの母親仲間が仕事を辞めていく「小1の壁」を目の当たりにし、女性が働きやすく、子どもが生き生きできる場所をつくりたいとの思いが強くなり、学童保育と放課後等デイサービスをスタート。子どもたちに岐阜県の自然や伝統文化、産業の魅力を伝えようと、地域の方を招いた「鮎菓子」「鷹匠」「魚の祭り」「未来の技術」などの体験を企画し、子どもたちがいろいろな大人たちと関わるきっかけを広げています。

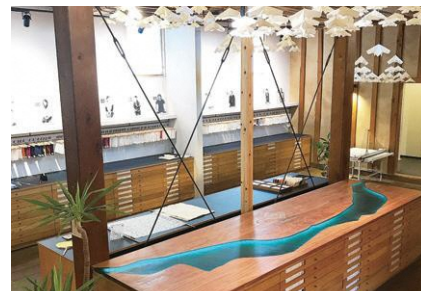


丸重製紙企業組合

美濃市／製造業（和紙・和紙製品）

SDGsの多角的な実践を通して 「美濃と和紙を元氣」に

和紙製造において、持続可能な森林管理のもとつくられた製品に与えられる「FSC認証」の取得や資源のリサイクル・アップサイクル、J-クレジットを活用した実質100%の再エネ化など、環境にやさしい「ものづくり」を実現しています。また、本業の和紙製造にとどまらず、和紙専門店の運営、古民家再生やまちづくりなど、常に新たなことにチャレンジし、多角的なアプローチにより、ゴール11の「住み続けられるまちづくりを」を実践しています。



リコージャパン株式会社 岐阜支社



岐阜市／卸売業（各種機器）

「環境」と「はたらく人」にやさしい 事業活動を展開



2019年に移転した新社屋「ViCreA(ヴィクレア)岐阜」は、太陽光発電や照明・空調の制御システムなどを導入した、リコージャパン初ZEB対応の省エネモデル事業所です。また、固定席を廃止し、全社員が自由にはたらく場所を選択できる「アクティブ・ベースド・ワーキング」やデジタルを活用した快適な職場環境づくりなど、新たな働き方も実践しています。こうした取り組みを学ぼうと、日本全国からこのオフィスの見学に訪れた企業・自治体・団体は750以上に上ります。



和光会グループ



岐阜市／医療・福祉

「地域包括ケア×SDGs」で 持続可能な地域を目指す



2020年1月にSDGsプロジェクトを立ち上げ、同年3月には、①医療・介護・福祉事業、②環境資源対策、③健康経営、④人材育成、⑤地域貢献の5分野からなるSDGs方針「地域とともに・Smile和光会2030」をリリースしました。その活動は、病院から在宅までのシームレスな連携、健康・介護予防意識の向上、介護人材の育成、養蜂を通じた環境保全、再生可能エネルギーの導入、SDGsの普及啓発を目的にしたイベントの開催など、多岐にわたっています。



清流の国ぎふ

SDGs 推進ネットワーク会員の募集

SDGsの達成に向けて「オール岐阜」で取り組むため、企業や団体、NPOなど多様な主体が連携するネットワークを設置し、皆さんの活動をサポートしています。ぜひ、SDGsの達成に向けて、ともに取り組んでいきましょう。

支援メニュー

- ◎ 県ホームページ上での会員の取り組み掲載
- ◎ メールマガジンによる情報共有
- ◎ 各種セミナーによる普及啓発
- ◎ 会員間の連携マッチング支援
- ◎ その他(補助金制度、融資制度)



事務局／岐阜県清流の国推進部SDGs推進課 TEL:058-272-8251 E-mail:c11123@pref.gifu.lg.jp

身近なところでもできるSDGsアクション

5 ジェンダー平等を実現しよう



ジェンダー平等を実現しよう

GENDER EQUALITY

ジェンダー(生物学的ではなく、社会・文化的な性差)の平等は、基本的人権であり、平和で豊かな社会を実現するための基盤です。しかしながら、世界では依然として男女差別が見られ、日本においても、賃金格差のほか、女性の管理職登用や政治参画が遅れています。

✓ 家事・育児を分担しよう

内閣府の調査によると、夫婦間で女性が家事に費やす時間は、男性の2倍以上となっています。料理・掃除・洗濯など以外にも名前のない家事はたくさんあり、これらを洗い出し家族で分担することが大切です。

✓ 男性が育児休業を積極的に取ろう

育児休業は男女ともに法律で認められた権利です。男性の育児休業取得率は年々上がってきているものの、まだ1割程度と低い水準となっています。



6 安全な水とトイレを世界中に



安全な水とトイレを世界中に

CLEAN WATER AND SANITATION

世界では、約20億人もの人々が安全な水を使えない状況にあり、水不足や劣悪な衛生状態により、毎年数百万人の命が失われています。また、牛肉1kgを生産するには、2万リットルの水が必要になると言われており、食料の多くを輸入に頼っている私たち日本人にとっても、真剣にこの問題と向き合わなければなりません。

✓ こまめに水を止めよう

シャワーを1分短縮すると約12リットルもの水を節約することができます。これにより、水だけでなく、お湯を沸かす電気やガスの節約にもつながります。

✓ お風呂の水は有効に使おう

家庭で一番多く水が使われているのは「お風呂」です。例えば、湯船の半分の残り湯を洗濯に使うことで、約100リットルの節水になります。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



エネルギーをみんなにそしてクリーンに

AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY

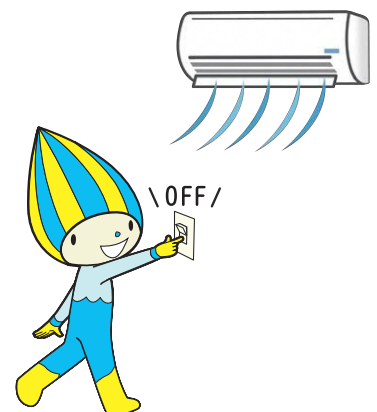
私たちの便利で快適なくらしは、電気やガス、ガソリンといったエネルギーによって支えられています。しかしながら、日本では、そのほとんどを輸入に頼っているのが現状であり、省エネに向けた取り組みが必要です。また、従来の化石燃料からCO₂を排出しない再生可能エネルギーへの転換も重要視されています。

✓ 冷暖房の温度を調節しよう

エアコンの冷暖房を1℃控えめに設定すると、約10%の節電になるとされています。環境省が推奨する「冷房時28℃」、「暖房時20℃」を目安に、設定温度を見直してみましょう。

✓ 買い替えの際は、省エネ型の家電や照明器具(LEDなど)を選ぼう

最近の家電製品は省エネ性能が進んでいます。例えば、家の中で消費電力が多い冷蔵庫は10年前と比較して約40~47%、LEDは一般電球と比較して約86%も省エネです。



身近なところでも、私たちができるSDGsアクションはたくさんあります。一つひとつの行動は些細なことでも、一人ひとりの努力がつながることで、大きな流れとなり、SDGsの達成に向け、大きく前進します。

12 つくる責任
つかう責任



つくる責任 つかう責任

RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION

日本では年間500万トンを超える食品ロスがあると推計されています。これは、日本人1人が毎日お茶碗一杯分のご飯を捨てているのと同じ量になります。その一方で、世界では約8億人を超える人々が栄養不足に陥っているとされており、地球の人口の増加にともない、今後も増えていくと予測されています。

✓ 冷蔵庫を整理整頓しよう

食材が一目でわかるよう上手に整理することで、買いすぎや消費期限切れを防止できます。どこに何があるか「見える化」することで、冷蔵庫の開ける時間が減り、節電にもつながります。

✓ 「てまえどり」を心がけよう

すぐに消費するものであれば、商品棚の手前にある比較的、販売期限の迫ったものを選ぶことも食品ロスの削減に効果的です。



13 気候変動に
具体的な対策を



気候変動に具体的な対策を

CLIMATE ACTION

地球の平均気温は、産業革命前の18世紀後半から1℃近く上昇しており、CO₂を始めとする温室効果ガスによる地球温暖化が原因であると考えられています。地球温暖化は、記録的な猛暑や集中豪雨、台風などの異常気象にも影響を及ぼしていると指摘されており、世界全体で対策に取り組むことが急務です。

✓ 自転車を利用しよう

自転車は自動車に比べ、1kmあたり130gのCO₂を削減できるとされています。また、渋滞の緩和や運動不足の解消、健康の維持にもつながります。

✓ 地元で採れたものを食べよう

地産地消は、輸送距離が短く、燃料やCO₂排出量の削減につながります。そして、地元で採れたものは、新鮮かつ安全で、なによりもおいしいです。



14 海の豊かさを
守ろう



海の豊かさを守ろう

LIFE BELOW WATER

現在、世界の海には1億5,000万トンのプラスチックごみが存在しており、新たに毎年800万トンが流入していると推計されています。また、波や紫外線により5mm以下に砕かれたプラスチックは、「マイクロプラスチック」と呼ばれ、魚を介して人の体内に取り込まれることで、健康への被害が懸念されています。

✓ エコバッグを持ち歩こう

日本の廃プラスチックのうちレジ袋が占める割合は2%程度とわずかです。しかし、使い捨てプラスチックに頼った生活を変える第一歩が大切で、まずは身近なところから始めましょう。

✓ 食用油は燃えるごみに捨てよう

流しに捨てられた油は、海を汚染し生態系を破壊します。食用油はできるだけ使い切り、廃棄する場合は、新聞紙や凝固剤などを使って、燃えるごみとして捨てましょう。





「オール岐阜」でSDGsの達成を

2023年3月

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS × GIFU

岐阜県 清流の国推進部SDGs推進課

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1

[電話] 058-272-8251

[URL]<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/26370.html>



表紙のイラストは「一般社団法人ヒトノネ」で学ぶ
子どもたちの作品です